

「令和5年度森林・林業白書」に基づく、我が国における木材産業の動向に関する次の記述のうち、妥当なのはどれか。

1. 近年、大規模製材工場が減少し、小規模製材工場が各産地に新たに建設される傾向があり、令和4（2022）年末現在の製材工場数は3804工場で、前年よりも144工場増加した。
2. 令和4（2022）年の集成材の生産量は、新設住宅着工戸数の増加等を受けて前年から大幅に増加して830万 $\text{m}^3$ となり、その大部分を造作用が占めている。
3. 令和4（2022）年の普通合板の生産量は、欧州への輸出が好調のため前年から大幅に増加して1530万 $\text{m}^3$ となり、このうち構造用の広葉樹合板が95.4%を占め、1460万 $\text{m}^3$ となっている。
4. 令和4（2022）年の木造軸組工法におけるプレカット加工率は、90%を超えている。
5. 我が国のパーティクルボードは、多くが輸入で賄われており、令和4（2022）年には、国内生産量は輸入量の $\frac{1}{3}$ 程度の9.8万 $\text{m}^3$ にとどまっている。